

# 民報あばしり

NO.930

2013・8・4

発行所

日本共産党  
 網走市委員会  
 網走市北八西三  
 四三二・四四五八  
 F 四三二・四四五七



## 第25回農業委員会総会

7月29日午前9時30分から第25回網走市農業委員会総会が行われました。

議案第1号現況証明について、帳簿上は畑となっているが現況は非農地と認め

る。議案第2号農地等の所有権移転について、議案第3号農地等の使用貸借による権利の設定について、議案第4号農業経営基盤強化促進法第18条の規定による農用地利用集積計画の決定について、議案第5号農地利用集積計画の決定に係る農業経営基盤強化促進法第18条の規定による農用地利用集積計画の決定についてを全員一致で決定されました。

また、報告第1号PPP交渉参加に関する意見書の提出について、6月24日、PPP政府対策本部において、政府がPPP交渉に参加するにあたり、政府の交渉の参考とすることを目的として、各団体等から意見・要望・情報等の収集を行うこととした旨、北海道農業会議を通じて

て連絡があったので、農業委員会として意見書を提出したことが報告され承認されました。

### 農地パトロールを実施

総会終了後、10時から農地の利用状況の調査（荒廃農地の発生・解消状況に関する調査）が行われました。

途中、数ヶ所で作物の生育状況についても見ましたが、馬鈴薯もビートも雨不足による生育の遅れが目につき、早く雨がほしいとの声が出されました。



## 共産党の躍進を祝う会



先の参院選挙で日本共産党が改選3議席から8議席へと大きく躍進したことを祝う会が南支部と南後援会の合同で行いました。

最初に、杉山後援会長から国政選挙で久々に躍進し、とても嬉しい。これからは頑張りましょうとあいさつがありました。

次に、松浦市議からマスコミは最終版に、共産党は躍進するが比例は4議席にとどまるとの予想を打ち破り5議席獲得しました。選挙区でも東京、大阪、京都の3議席を獲得し8議席に躍進したのは後援会のみならずの最終版での奮闘があったからこそですとお礼を述べました。

参加者からは、選挙の結果やこれからの参議院での党議員団の活躍に期待する声がたくさんでました。

## いよいよ東奔西走

参院選挙が終り10日以上経ち共産党の躍進を喜んでくれる方々は数多くいますが、自民党の大勝を危惧する声も多く聞かれます。

選挙中に支持を訴えた中で、年金が削減されようとしている高齢者の方が、「少ない年金を削るのは本当に怒り心頭だが、70歳過ぎて病気をし、その治療にお金がかかったが、現行の70歳、74歳の窓口負担軽減措置（1割負担）で本当に助かった。それを参院選圧勝を予想される自公政権は世代間の公平などを理由に早期に2割にしようとしている。

2割になればとても治療費は払ってはいけないし、どれだけ生活を切り詰めればいいのか。まったく見通しのない人生だよ……。このような悪政の防波堤として、今度の選挙は頑張つてほしい！応援するよ」といった。選挙後、圧勝に呼応するかのように政府の社会保障国民会議は「公的制度への依存を減らし、自助努力でサービスの徹底削減」を強調しました。

しかし、躍進の8議席を加えた11議席は悪政の防波堤としてはかなり強力になりました。党首討論、議案提出権、発言回数大幅増などを駆使し、弱者の期待に応えるべく紙智子はじめ11議員は出番を待っています。

## 松浦奮闘メモ

先の参議院選挙で共産党は15年振りに躍進しましたが、今、集金をしているところでも良かったねーすごい大躍進だねーとの声がかかりました。

この間、財界・大企業など日本を支配している人たちには、2大政党の政治体制をつくるため衆議院では小選挙区制を導入して少数政党を排除する選挙制度に変えてきました。

しかし、民主党がバラバラに分裂したため2大政党の片方が小さくなってしまい2大政党の政治体制が崩壊してしまいました。今後、民主党がどうなるかは分かりませんが、いずれにしても今の衆議院での小選挙区選挙制度は見直し、少なくとも中選挙区に戻すとか、1票の格差がなく死票が少ない比例代表制度にすべきです。

そうすれば国民の声がまっすぐ反映する制度になり、今のように風頼みの選挙ではなくなるのではないのでしょうか。

## 流水

参議院選挙の勝利、本当におめでとう。改選前の三議席に対し、八議席の確保はなんといいっても大きな成果です。都議選に次ぐ前進、本当におめでとう。共に喜びましょう。▼投票率が低迷する中で、優位を占めた与党自民も比例では票を減らし、前回政権を担った民主党も、国民の期待を裏切った代償を払われ大後退、マスコミが宣伝に努めた第三極政党も政策らしいものさえ持たずで振るわず▼そうした中で唯一、「ぶれず安倍政権に真正面から立ち向かい「国民が主人公」の新しい政治を目指す、真の対決軸としてたたかかった共産党候補に多くの国民の共感が得られました▼この選挙を「ねじれの解消」とマスコミがいますが、アベノミクスは憲法9条の改訂、原発再稼働、PPP促進、消費税増税など、どれを取ってみても国民との間にはまさに「ねじれ」そのものがあり、安倍政治は進めば進むほど、ねじれは増すばかりです▼こうした新しい情勢の中で議案提案権を持つ共産党議員団の活躍には大きな期待が寄せられるでしょう▼更に今回共産党に関心を持ち、期待を寄せてくれた多くの人々との結びつきを更に大きく大きく広め、自公政治を大きく包囲して行くうではありませんか（K）